

6 実現に向けた課題整理

香川駅周辺地区における各施策案について、短期から20年の長期にわたる計画を実現化に向けた段階整備図として作成した。

短期施策に関しては、現在の市（土地開発公社）所有地を有効活用する施策であるため、比較的实现しやすいことが予想されるが、中長期施策の実現に向けては、支障範囲も大きいことから地元及び関係機関との合意形成が最重要課題であり、協議状況によってはその整備時期に大きな影響を与えることとなる。

また中期以降の施策については、『香川駅整備』が行われないと、各施策の有効性は失われることから、まずは『香川駅整備』に向け、関係機関との協議が必要であると考えられる。

ここで、段階整備で検討した各整備時期毎の施策について課題を整理する。

(1) 短期施策

ア西口自転車駐車場計画

計画地は市（土地開発公社）所有地であることから、用地確保は必要ないが、整備手法として『(財)自転車駐車場整備センター』を活用することが検討される。なお、計画地は、用途地域が第一種中高層住居専用地域のため都市計画の変更が必要となる。

イ西口駅前広場計画

計画地は大半が市（土地開発公社）所有地であることから、整備費用の確保が必要であるとともに、将来香川駅整備の際、自由通路への接続を考慮した計画とすることが重要である。

ウ中期施策

(7) 香川甘沼線整備

本計画は、香川地区の重要な道路として、住民の要望も多いが、整備区間には住居等も多く、沿道住民の合意形成と用地確保が最重要課題である。

(4) 香川駅整備計画

本施策が後の計画への起爆剂的な役割を果たすことから、関係機関との協議を行い、早期実現に向けた、整備スケジュールを確立しなければならない。特にJR東日本とは費用負担の考え方や、用地処理の考え方、駅に近接している踏切の将来構想などを協議する必要がある。また、詳細検討に向けた準備（測量等）も必要である。

(ウ) 東口自転車駐車場・駅前広場整備計画

現在計画地は私有地であることから、用地取得に向けた協議が必要となるが、東口設置には香川駅整備が前提となるため、香川駅整備計画との調整が必要である。また整備に当たっては、計画地周辺住民の合意形成も必要となる。